



JUJU のオンライン・サロン『5次元ライフ+7次元シフトセミナー』  
Supplementary reader

[ますます混沌とした世界に突入していますが…]

Junko Komiya-Juju

混沌とした世界になっていますが  
これからどうなってしまうだろう？  
と、不安になっている方もいるかもしれませんね。

そこで今の世界の見方を、5次元的な観点から、ちょっと説明してみようと思います。

実はこれ、昨日「5次元ライフ+7次元シフトセミナー」のおまけとしてついている  
メタ・リーディングでのチャネリングの内容なのですが、これが結構わかりやすい説明だったので、書いて伝えようと思います。

17日から始まる、2022年第3期オンライン・サロン『5次元ライフ+7次元シフトセミナー』では、実際にお話しをしますので、もっとわかりやすいと思いますが、一足先に、書いておくことにしますね。

\*\*\*\*\*

DSという暗号のような頭文字で呼ばれている人たちを知っていますか？

これは、ディープステートの略で、影の政府と呼ばれている支配者のグループのことを指します。

つまり、表向きには、各国の政府が政治を行って、さまざまなことを動かしているとみせているけれど、その背後には、その政府を操る「姿を見せない存在」がいて、その存在が、いろいろな支配を行っているという見方がこれですね。

コロナ禍を作り出したのも彼らであり、その禍の中で危険なワクチンを広めたり、DNA そのものを改ざんしたりしようと目論んでいると言われていています。

所謂『陰謀論』と言われるものでもありますが、陰謀なのか、計画なのか、その辺は、よくわかりません。

ただ、こう見ることも可能かと思います。

舞台やテレビ、映画などでは、キャストがステージやモニターの中で動いていますが、このストーリーは決められていて、その決め事が書かれているものをシナリオとかストーリーと呼びます。

キャストを動かしているのは、このシナリオと演出家です。

そして、実際に舞台に出ているキャストよりも、多くのスタッフが背後にいて、さまざまな仕事をしています。

例えば、テロなども劇場型と言われるものは、最近は多いようですが、その、劇場型というものは、まさに、ニュースに出てくる人たちは、キャストであり、背後にシナリオや演出家、そしてスタッフがいるのだと考えると、

特定の政治家などは自分がキャストであるということを認識している人たちであり、それが航空機事故であったりすると、航空機の専門家が、俄かキャストになったりしますが、こういう場合のキャストは、自分がキャストにされているということに自覚がないこともあると思います。

別の言い方をすれば、うまく使われてしまっているということですね。

キャストに、実際の俳優やタレントなどを使うこともあります。

信憑性が増す演技や、魅力的に人を引き付ける術を知っているので、大変役に立ちます。ただし、彼らは、悪事を働いたという魅力を発揮することもできるわけですから、大麻で捕まったとか、自殺したとか、さまざまな形で使われているのではないか…  
そういう見方もできるようです。

今、世界が混乱しているのは、このDSと呼ばれるものが書いたシナリオが、どんなシナリオなのかを知りたくなっている人たちが増えていて、以前のように、黙って舞台を見ているわけではなく、そこにあるシナリオを先に知りたくなってしまうということが、あげられるかもしれません。

つまり、次に小道具のスタッフは何を舞台に置きにくるか？

とか、演出家は、どんな劇的な演出をしているのか等を、云々したくなってしまうので、観客であることはよいけれど、巻き込まれて、知らない間にキャストにされたり、知らない間にエキストラにされたりして、とぼっちを受けたくない…と思っているわけです。

とぼっちを受けたくない？

…ので、あれば、近づかなければよいのかと言えば

そこが、難しい問題なのです。

地震に近づかないわけにはいきません。私たちの国は、地震大国だからです。

え？地震は自然現象でしょう？

と、疑問に思っていますか？よく考えてみてください。劇場型というものには、どんなディザスターもが付き物です。

ガラガラと崩れる高層ビルや、暗殺…

大きな津波や、原発の爆発など

劇場を実際の地球上の場所を使って、大ロケを行うわけですから、自然もへったくれもないわけです。

これも、混乱の一つとなります。

つまり、どの地震が、本物の自然現象で、どの地震が人工的なのか？

どの台風が、自然現象で、どの台風は人工的なのか？

どうやったら、それが見分けられるのか？

グラスの中にウイスキーが入っているのか？

或いは、グラスの中に入っているのは、ウーロン茶なのか？

キャストの演技をみているだけでは、わからない。

だから、たとえグラスに入っているのはウーロン茶であったとしても、劇場型としては、ウイスキーだと見せかけるために、プロパガンダと言う宣伝をしなくてはならないのです。

酔っぱらった演技をしたり、それらしい写真を作ったり、動画を作ったり

グラスの中に鼻を突っ込んで、「う～ん、いいスコッチだね」と、ウーロン茶の香りをウイスキーと言ってみたりする術が必要なのです。

大規模なプロパガンダになると、一人や二人の俳優ではできないので、広告宣伝の会社を使ったりするようです。

大きな宣伝会社は、子会社をもっているのです、そこにもギャラが発生します。

そこで、巨額の製作費というものが支払われていく。

そうすると、ここまですごい、手の込んだことを、たんなるプロパガンダのためにやることなどないだろうと、常識的に考える人たちを、真っ先に巻き込むことができるようになります。

自ら、手向ける花を手を持って、焼香にでかけたりします。

広告宣伝会社には、多くの言葉の魔法使いが雇われていて、感情がふっと動いてしまったり、ふっと涙ぐんでしまえるような言葉を見事に操れる才能ある人たちがそろっているのです、自分を良いひとだと思いたい人が、一番欲している感情を手渡ししてくれます。

そして、震災ボランティアなども、困った人たちのところに、手弁当で助けにいたりするようになるのです。

ここで、まだ、感動的な逸話ができるので、そういった逸話が、どんどん劇場型の出来事に現実味を帯びさせていくので

DSは、この映画ごっこのようなことがやめられなくなります。

舞台や映画は見に行くものだったのに、今や、世界が舞台であり、今、ここが映画の撮影現場であり映像そのものだからです。

それほど、舞台や映画はやみつきになるほどの、魅力と魔力をもったものです。

そして、現実味をどんどん帯びさせていくためには、まさか、そんなことまでしないだろうと思われていることをしていけばよいわけですから、世界的なパンデミックも、創造してしまうことができるのです。

ここまでは、ここからの話の基礎となります。

いいですか？

このDSを紅組とします。運動会のように、対するは、白組。

DSは、4次元と言う時間のある次元の中で、これらの劇場型を創造しています。

なぜ、4次元だと言えるかと言えば、4次元を動かす動力である「お金」というものが、つきまわっているからです。

対する白組はどうでしょう？

白組は5次元ライフを送っている人たちで、劇場型の出来事の中の、エキストラにもなりませんし、キャストにもなりません。

なぜなら、5次元意識で俯瞰しているので、その役割の中に入りたくないし、面白いと思っていないのです。

彼ら白組の人たちとは、地球に住む人たちや、かつて住んでいて、今6次元あたりに住んでいる人たちの集合意識ともいえるもので、窮屈な現実よりも、解放されて自由な現実を生きること、喜びを見出しています。

彼らは、「こうだったらいいのになあ」と思うことを、実際に現実化をしていくことに興味があり、その興味のために、日々、小さなことにエネルギーを注いでいます。

おいしいとか、キレイとか、楽しいとか、嬉しいと言った感情を持つことが、これからの地球にとって大切なことであると知っている集合意識です。

この白組は、ですから、紅組と対立しません。

紅組がやっていることは、白組には、あまり魅力的に感じられないものなので、紅組の仕業を傍観しています。

中には、傍観せず、率先して紅組の行動を楽しんでみていよう～、と思う人もいるはずです。時には参加してもいいというくらい、近づくことを楽しみにしている人もいるでしょう。

しかし、基本的に白組は、紅組がばらまく情報を楽しむことはあれど、その情報に踊らされることはありません。

そして、どんどん俯瞰する目を養って、次元間での上昇を試みています。

4次元の価値観から、既に乖離していて、その乖離に対する問題視さえない。物理的な宇宙と、内的な宇宙の統合を目指しているので、4次元的な時空の座標軸が変化して5次元へ移行することを楽しんでいるのです。

この移行を試み始めると、欲しいと思っているものが、お金を介さずとも手に入る経験をどんどんするようになります。

盗んだり、万引きをしたりと言う方法ではなく、なんらかのギフトのような形でそれはやってくるということです。

白組の意識たちは、欲しいもの、欲しい状況を目論みつつ、1次元から7次元あたりまでの変換を行いながら、お金ではないもので、満足感を得ていきます。

紅組と白組は、ですから、対立もできなければ、争うこともできないわけです。

なぜなら、同じ意識の領域に存在しないので、袖ふれあう至近距離に行ったとしても、価値観が融け合わないのです、対立すら成り立たない。

紅組と白組は、同じ次元という土俵の上に存在していたとしても、対立することもできなければ、争ったり、闘ったりすることも不可能な相手方なのです。

支配したい演出家でありストーリーテラーである紅組

支配と言う概念がない自由で即興的な自分製ストーリーのキャストであり演出家である白組

紅組と白組は、対立すること不必要なのです。

4次元にいつづきたい紅組と、5次元ライフへとどんどん移行していく白組は望んでいることが異なるので、見ているビジョンそのものも違うので、同じ空間にいても微妙な次元感覚の差があります。

それで、噛み合わないのです。

最近、なんだか、噛み合わない友人が出て来たとか、どうも、家族と噛み合わない、折り合えない感覚が満載だという方がいるとしたら、こういった乖離が、今、起きているということを認識するとよいでしょう。

俗に、このような乖離のことを、二極分化と言いますが、異なる次元に乖離していくことですから、「極」ではありません。

次元の分離のようなものなので、「極化」するようなことは起きていないのです。

しかし、紅組の世界の中では、彼らに対峙したいと思う対局の白組を作ります。

ここは、二分化し、二極化の態をなしています。

紅組DSと戦う意識の白組ですから、弁証法的な発展でもしようと目論んでいる意識かもしれません。

この弁証法という哲学用語が、現代において使用される場合、ヘーゲルによって定式化された弁証法、及びそれを継承しているマルクスの弁証法を意味することがほとんどです。

ヘーゲルはともかく、マルクスと言う人は、共産主義を代表するような人だと思われていますが、実際は彼の敵とするブルジョア一族、ロスチャイルド家の一員で、お金に困らない優雅な生活をしていたということですから、紅組に対する白組とは、元を同じくするということがよくわかります。

ですから、紅組に対抗する意識である白組に入ってしまうと、4次元的な心配にも巻き込まれてしまうということです。

この4次元的な心配とは何かというと、「お金」の支配されてしまって、「お金」がなければ生きていけない、幸せになどなれないと思込んでしまうのです。

お金がなくても、あなたを必要とする人のために、何かをやってあげたり提供することができれば、食べ物をくれたり、食べるためのお金をくれたりすると思います。

しかし、お金がなければ何もできないと思っている場合は、お金で何化を成し遂げようと思っているので、お金なしに食べたり飲んだりすると自分のルール違反になってしまいますから、なかなかこのルールの外に出ないように、きっちり「お金でなんとかしたい」という意識を保ちます。

「お金がないから」

という言葉を使い続けると、4次元に雁字搦めになってしまうかもしれません。

それだけ、4次元の時間やマテリアルを楽しみたい場合は、それもよいでしょう。

なぜなら、あなたは地球という「場」に、時間と言う存在を体感しに来たからであり、マテリアルを楽しみに来たからに違いありません。

こんなに時間というものを感じ、楽しみ、苦しめる4次元を見つけることは、なかなか難しいと思ってみたらどうでしょう？

実際に、数学で4次元を証明するのは、2次元や高次元を証明するよりも、不確かなことだそうですね。

数字の宇宙からみると、3次元も4次元も、なかなか存在できない次元だと言いますから、そんなレアなところにマテリアルな身体をもって出現できるなんて、なんというラッキーなことなのでしょう。

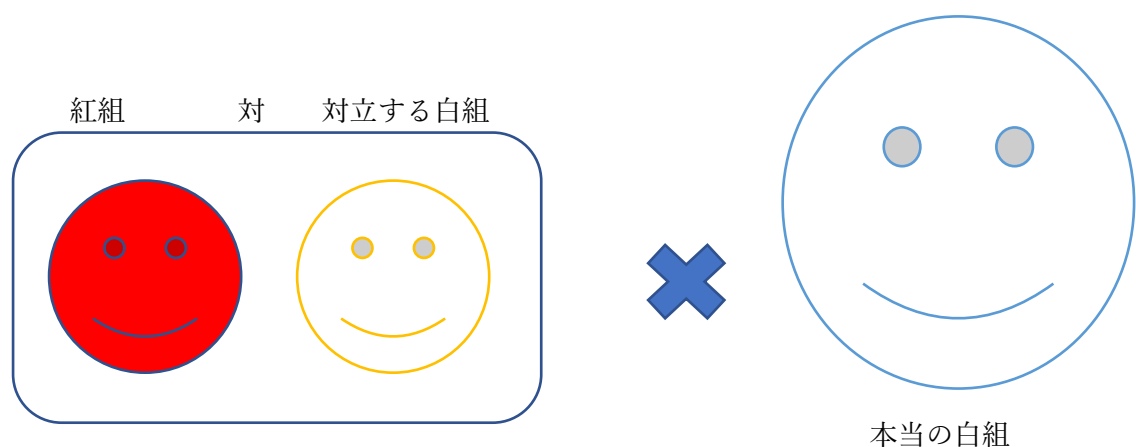
そして、対立と言う図式の中で、ワクワクドキドキすることができる。

お金というゲームのコインや札がなければ、点数を上げることができないのが4次元。

そこから、なかなか上の次元に移行することが考えられないのは、やはり、4次元での遊びは、楽しすぎるからなのではないでしょうか？

対立する相手一味が、自分でもある…

マルクスはそんな境遇にいたのですが、ここらへんで、全貌が見えてきたのではないかと思います。



ということですが、この対立の構図と紅組対本当の白組の関係はオンライン・サロンでもう少しわかりやすくお話ししたいと思います。



では、この本当の白組はどんな感じなのでしょう？

陰謀説は知っていても、更に客観的に生きているので、紅組がすることに興味がありません。それよりも、お金があるなしにかかわらず、幸せだと感じるもの、感じることを大切にすることが第一だと言う感じです。

例えば、美しい夕焼けを見たら、いくら払わなければならないのでしょうか？

波の音を聴くだけで、いくらなのでしょう？

そよ風にあたることで、いくら支払わなければならないのでしょうか？

特別な場所で鑑賞しないかぎり、お金はいりません。

物事の美しさを感じる時に、お金が介在しなくてもよい場がたくさんあります。

これは、安いものを見つければ、なんとかお金を払わなくてすむよ

と、言いたいわけではなく

何事もお金を払わなければ、提供されるものはない…

と、思い込んでいるところを癒してほしいから説明しているのです。

美しいと感じることに、お金を介在しなくてもよい。

又は、

愛を感じることに、お金を介在しなくてもよい…のです。

そして、そこから吸収した微細な波動を、自分の中でエネルギーに変換させるための

ビジョンを持ち、そのビジョンを現実化するために行動する。

しかもできるだけ常識を超えた、自由な発想で。

と、

これが、本当の白組が行うことです。

そして、更に言えば、お金を作ったり、稼いだり、儉約や節約をしたりするという楽しみ方を取り入れてもいいのです。

借金を楽しむことも可能です。

お金に対する観念を緩くほどこき、ビジョンづくりにエネルギーを注ぎ、具体的な感覚をビジョンに持ち込み、まるで映画や舞台の主人公が演じるように、自分の舞台を作り、演出する。

まず、自分の見た目を整えて、ビジョンの中の自分が最高に美しく感じられるようにしていきます。  
ましょう。

所作も動きも優雅に…。或いはシャープに、切れ味良く。

遠くで起きていることよりも、今、ここにいるあなたの近くで起きていることを楽しみ、  
五感が感じることを味わいましょう。

感情ではなく、感覚を味わうのです。

\*\*\*\*\*

混沌とした世界の中で、  
どの方向に向かえばよいのか？と、少しばかり混乱しかけた方もいたのではないかと思います  
すが、誰かが亡くなったとしても、生きているときと、価値は変わりません。  
わざわざ、価値を見直したりする必要もありません。  
感情に流される必要もありません。

淡々と、振り返り、一体、どこに存在していた人なのかをよく見てみるとよいでしょう。

紅組なのか？  
紅組と対立している白組なのか？

或いは  
本当の白組なのか？

そして  
あなた自身は、どこに自分のポジションをおけばよいのか？

続きは、オンライン・サロンで  
お話ししましょう